

国立療養所松丘保養園 ハンセン病について学ぶ連続講座「まなびの杜」第一回

日時：平成 28 年 2 月 27 日（土） 9：30～12：30

場所：松丘保養園 多目的ホール

主催：一般財団法人 松丘保養園松桜会

講演 1 「ハンセン病医療半世紀の現場から」

講師：京都大学医学部非常勤講師 医師 尾崎 元昭



ハンセン病医療の現状と課題について説明し、ハンセン病対策の歴史から何を教えられるか、病気への偏見・差別をどう理解するかなどについて語る。

～講師プロフィール～

1943 年、熊本市生まれ。

1967 年、熊本大学医学部卒業。京都大学医学部でインターン終了後、皮膚科学教室および皮膚病特別研究施設に属して皮膚科学、ハンセン病医学を専攻。国立療養所長島愛生園皮膚科医長、京都大学医学部皮膚科講師、兵庫県立尼崎病院皮膚科部長を経て長島愛生園皮膚科医長に再任、

2008 年、退職後も国立療養所長島愛生園、東北新生園、松丘保養園での診療に関わり続ける。

医学博士。皮膚科専門医。

著書：『総説現代ハンセン病医学』（監修、共著）、『ハンセン病アトラス』（編集、共著）、『見逃してはならない感染症』（共著）、『隔ての海の岸辺で 長島愛生園便り』（榕樹書林 2009 年）、『隔ての島とのはざままで』（文芸社 2015 年）など。

講演 2 「ハンセン病療養所入所者の遺品整理から見えてくるもの」

講師：元熊本現代美術館学芸員 蔵座 江美

公立美術館で初めて国内の療養所の表現活動を展覧会という場で紹介した経緯や、そこから学んだこと、松丘保養園での遺品整理から感じたことなどを資料を紹介しながらお話しします。

～講師プロフィール～

1970 年、熊本県生まれ。別府大学文学部卒。

2001 年、熊本市現代美術館（CAMK）開館準備室 学芸員・司書。

2002 年 10 月 CAMK の開館記念展での菊池恵楓園の入所者との交流によって、様々な気づきを与えられる。

2015 年 7 月 熊本市現代美術館を退職、一般社団法人ヒューマンライツふくおか理事、菊池恵楓園の絵画作品の調査・保存を行っている。

主に担当した展覧会は「ATTITUDE2002」（2002、恵楓園関係部分）、「光の絵画 菊池恵楓園絵画クラブ作品展」（2003・2005・2010）、「熊本の華人展」（2003～毎年、熊本の 21 流派のいけばな展）、「点訳絵本の世界展」（2006）、「ATTITUDE2007」（2007、ハンセン病関係部分）、「工房まる。てん」（2011）、「葉祥明展」（2012）、「アール・ブリュット・ジャポネ展」（2013）、「鉛筆のチカラ 木下晋・吉村芳生展」（2014）など。



~MEMO~

